学校便り
プラハ日本人学校
TEL　: 233 340 000
FAX　: 233 322 424
Email:gakko@jpschool.cz
No.937　2019/6/25

JAPONSKÁ ŠKOLA V PRAZE

VLTAVA

学校教育目標
「 自ら学び共に学ぶ、豊かな心と国際性あふれる　たくましい児童・生徒の育成　」
目指す子ども像
かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子

リジツェの光 合唱祭

６月１５日(土)リジツェ村平和祈念式典の日に、子ども像の前で歌と学校全体で折った 1300 の千羽鶴をささげました。今年は、合唱祭にも招待され、チェコの各地域からこの日のために集まった合唱グループに混じって、日本人学校の６年生と中学部の子どもたちも心を込めて歌いました。

第２次世界大戦中の６月にリジツェ村の５００人いた１６歳以上の村民が全員銃殺され、強制収容所に連れて行かれた８２名の子どもたちも命を奪われました。その悲劇を絶対に忘れてはいけないということで、毎年リジツェ村で平和祈念式典が行われます。当日は、子ども像の前で献花し歌を捧げるとともに、合唱祭に参加してチェコの 14 地区の代表の子どもたちと平和への思いを歌いあげました。子どもたちの感想を一部ですが掲載させていただきます。

・きょうは、リジツェ村でとてもいい経験ができました。チェコの式典に日本人として参加して、歌を歌うというのはなかなかできないことです。参加できてよかったです。
・今日はチェコの子ども達といっしょに歌を歌いました。子どもたちにバラを渡すとみんな嬉しそうでした。私も嬉しかったです。
・今日はリジツェでした。去年よりもさらにリジツェについて考えたり、学ぶことができました。本当に良かったです。
・今日はリジツェ村の式典に参加しました。現地の子どもにバラを渡すとき、”Thank you very much.”と言ってくれたのがとても印象に残りました。

・今、考えてみると正直、真剣に「心」から取り組むことが出来なかった部分も少なからずあると思います。しかし、本番が近づいてくると、気が引き締まってきて自分の「心」からの歌が出るようになってきた気がしました。本番、「心」から思いを届けることが出来たと思います。
・最初の練習とリジツェの平和祈念式典が近づいてきたころの練習を比べると、練習に取り組む姿勢も変わり、皆の平和への思いが強くなったと思います。
・子ども像の前で歌った時、私は「これから、自分が前を向いて生きるよ。これから平和になるように、自分でできることをしていくよ。」という思いを伝えながら歌いました。
・82 人の子ども達は、いつも戦争当時の悲しい暗い顔のままだったけれど、未来は明るいといいなと思いながら歌った。
・子ども像を見た時、「約８０人の子どもがここで犠牲になったんだ。」と思うと、胸が痛くなりま

した。
・合唱祭、その場でチェコの子たちと心が通じ合った気がして、うれしかった。感動して歌を歌うのが楽しかった。
・最後、自分の作ったバラをチェコ人に渡すと言われたとき、断れたらどうしようなど、不安で一杯だったけれど、渡した女の子は、ありがとうと英語で言ってくれたので嬉しかった。
・合唱祭の後の、バラを渡すとき、「I give you.Here you are.」と言って渡すと、その子がにこにこと「Thank you.」と言ってくれ、こちらも嬉しくなった。
・バラを渡すとき、私も勇気を出そう！と思い、頑張って渡したら、笑顔でバラを受けとってくれたので嬉しかった。
・平和とは何か。その答えの一つを今回また見つけることができた。笑顔で世界の人とつながることで平和への道をかけぬけていくことが出来ると思う。
・世界が平和になり、そばにいてくれる人、大切な人がいて、幸せで笑顔でありますように、心から願っています。
・「未来の世界が平和でありますように」

【参考】
1941 年にラインハルト・ハイドリヒがチェコの副総督に任じられ、同地の対レジスタンス作戦を担当する。ハイドリヒが赴任すると、チェコのレジスタンス組織は苦境に陥ったため、在英チェコスロバキア亡命政府とイギリス政府は、ハイドリヒの暗殺作戦を立案した。
1942 年 5 月 27 日 、ハイドリヒはいつものようにプラハ郊外の宿舎から、執務室がある市内のプラハ城に専用車で出勤した。朝 10 時半頃、車がホレショヴィチェ通り(Holešovice)にさしかかった時、待ち伏せしていた２人が爆弾を投げつけた。ハイドリヒの乗用車は破壊され、重傷を負ったハイドリヒは病院に担ぎ込まれた。
6 月 4 日、ハイドリヒは死亡。ヒトラーは怒り、6 月 9 日、リジツェ村の掃討を実行する総統命令を出した。
翌日の 6 月 10 日、保安警察部隊がリジツェ村にやってきた。約 500 人いたリジツェ村の村民全員が一箇所に集められ、15 歳以上の男性約 200 人は銃殺された。女性約 180 人は、ラーフェンスブリュック強制収容所に送られた。四分の一がチフスと過労により死亡した。
約 100 人の子供は、ウッチ（Łódź, 現在のポーランドに存在）のグナイゼナウ通り(Gneisenaustraße)の強制収容所に送られ、人種的に分類された。そこでアーリア化に適していると判断された 8 名の子供のみがドイツに送られ（戦後に発見され、チェコスロヴァキアに送還された)、残りの子供はヘウムノ強制収容所に送られた。
７人の実行部隊はキリルとメトディウス教会の地下に隠れるが、6 月 18 日に 800 人ものナチ部隊に突入され全員が殺された。
6 月 24 日にはレジャーキ(Ležáky)村もリジツェ村と同様に破壊された。ハイドリヒ暗殺へのナチスの報復で処刑された者は約 1300 人に上った。
この事件を題材に、チェコの外交官アヴィグドル・ダガンが制作を主導し、ハンフリー・ジェニングズが監督した宣伝映画「沈黙の村」(The Silent Village)が製作され、事件直後の 1943 年に公開された。リジツェ村は完全に消滅したが、戦後の 1949 年に再建された。村の破壊が世界に知れ渡ると、ナチスの蛮行に対する抗議や、虐殺された人々の追悼の印として、「リジツェ」の名を冠する町が諸外国（特に中南米諸国）に登場した。その例としてメキシコ・シティのサン・ヘロニモ＝リディセ(San Jerónimo-Lídice)や、ベネズエラの首都カラカスにあるリディセ地区とそこにあるリディセ病院、パナマのリディセ・デ・カピラや、ブラジルの町名がある。
第二次世界大戦でドイツ空軍によって徹底的に破壊された英国イングランドの都市コヴェントリーの広場は、その後リジツェの名前を付けられた。米国イリノイ州クレストヒルの近傍は、シュテルン・パークからリジツェに名前を変更した。
現在のリジツェ村は、元の村の跡地に隣接する場所に新しい村が再建されており、大きな追悼碑があることを除いては、その地域の近隣の村とよく似た村となっている。同時期にナチスにより破壊されたレジャーキ村は再建されていない。